

2. 「2017 大学入学者選抜に関する全米大会への参加報告」

大谷 尚

1. はじめに

2017 9.14-16 にボストンで開催された「大学入学者選抜に関する全米大会」2017年 NACAC National Conferenceに参加した。

NACAC とは、National Association for College Admission Counseling¹³であり、全米から、大学入学者選抜に関わる大学側のアドミッションズ・カウンセラー（Admissions Counselor）あるいはアドミッションズ・オフィサー（Admissions Officer）やその部門責任者と、高校側の進学指導専任職員（教員）であるカレッジ・カウンセラー（College Counselor）、そして後述する独立カレッジ・カウンセラー（Independent College Admission Counselor）が一同に会する会議である。



Conference会場内のディスプレイ

2. 会議の規模と会場

今年はボストンで開催されたこともあり、7,000名の参加者があった¹⁴。会場となったBoston Convention & Exhibition Centerは、空港等で使用されている障害者や高齢者の移動のための大型のカートさえも配備したきわめて大きなものであり、かつ隣接するシェラトンホテルの一部も会場として使用された。また、ボストン中のホテルを回る大型のシャトルバスが合計3つのルートでそれぞれ常に30分毎に発着していた。

3. 会議の雰囲気

これは学会ではないため、数多くなされる発表も、一部を除けば純粋な研究発表ではなく、主に成功事例（good practice）の発表あるいは問題提起などであった。この会議のいくつかの場所でも述べられていたが、米国の大学側のアドミッションズ・カウンセラーは、一人が130くらいの高校を担当していると言われている。つまり彼らは、それだけの数の高校のカレッジ・カウンセラーと知り合いなのであって、全米各地に職務上の知り合いがいることになる。それで、この会合でそれらの人々が再会するためか、会場のあらゆる時間あらゆるところでじつにたくさんの再会を喜ぶハグが見られる。また、全体会では地区毎に別れて着席し、フロアからの歓声にあふれ、指笛までもが鳴り響くような、ある意味で騒然とした、しかし良く言えば和気藹々とした雰囲気で行われる。これだけでなく、この会議の全体を貫く雰囲気は、あたかも大きな大きな同窓会あるいは年に一度のお祭りのような雰囲気である。全体会の際のNACAC会長

¹³ <https://www.nacacnet.org> なお、NACACは N+ACACであるが、全米各地にこの地域別下部組織があり、それが地域の頭文字+ACACという名称になっている。たとえば、New EnglandのNEACAC、イリノイのIACA、ミシガンのMACAC、ミネソタのMN-ACAC、ハワイのHawai'i ACACなどである。

¹⁴ 後述するが来年はユタ州ソルトレイクシティで開催。

Nancy T. Beane¹⁵の講演にもあったが、大学側のアドミッションズ・カウンセラーと高校側のカレッジ・カウンセラーとは、敵対したり利害対立したりする関係ではなく、生徒のためにより豊かで適切な選択が行われるようにお互いに協働する関係であると認識していて、その点で、親和的で協動的、かつお互いを鼓舞するような温かで元気な雰囲気に満ちていると感じた。

4. プログラム

プログラムは次のように、多岐にわたっている。

(1) 役員、歴代会長、各地区の代表者などのための会合

これらは関係者のみのためにクローズドで行われる。

(2) 全体会や初参加者 (first timer) のためのオリエンテーション

全体会では会長講演の他、キーノート・スピーカー Shaun R. Harper教授¹⁶ による人種と公正に関する刺激的な講演があり、キーノート・スピーカーによる本の販売とサイン会もその後で設定されていた。

初参加者のためのオリエンテーションでは、全体の構成が説明されたあと、同じ機関から複数参加しているなら、ぜひ同じセッションに参加せず、分かれて参加し、あとで情報共有をすべきであることなどいくつかのアドバイスがなされる。

(3) 一般セッション

一般セッションはありとあらゆる題材があり、次の Educational Sessionより大きめのトピックで開催される。トピックの例を挙げると次のようである。

「アドミッションのための面接のあり方」「出願者の文化的多様性への対応」「アドミッションに活用するテクノロジー」「出願者のテクノロジーの活用」「ソーシャルメディアの活用」「合格者への大学進学のためのカレッジフェアの開催方法」「ホームスクーリング」「将来のアドミッションズ・カウンセラーに求められるもの」「オーストラリアの大学への進学」「アジアの大学への進学」「英国の大学への進学」「学習障害を持つ生徒のアドミッション」「新入生が大学コミュニティに溶け込むためのサポート」等。

(4) 教育セッション (Educational Session)

教育セッションは、一般セッションより専門性の高いトピックで開催される傾向があるが、かならずしもその分類に当てはまらないものもあり、一般セッション以上に参加者の多いものもある。トピックの例は次のようである。

「選抜性の高いアドミッションと委員会ベースの評価」「テストを活用しないアドミッション」

¹⁵ Associate Director of College Counseling, The Westminster Schools (GA)

¹⁶ 現Clifford and Betty Allen Professor of Urban Leadership, USC Race & Equity Center Executive Director, University of Southern California. 前Professor and Founding Executive Director, Center for the Study of Race & Equity in Education University of Pennsylvania

「モバイルメディアを活用したアドミッション」「トランスジェンダーの生徒とジェンダーの確定しない生徒へのアドミッションの際の手続き等の配慮」「留学生の獲得」「低所得の学生への対応」「イスラムの生徒への対応」「アドミッションの100年の改革」「他校への転学」「出願のためのエッセイの書き方」「ホリスティック・アドミッション」（この概念については後述する）等。

(5) SIG (Special Interest Group)

最近では日本の学会でもSIG があり、セッションやワークショップがSIGによって開催されることも多いが、この会のSIGでは、少なくとも筆者が参加した2つでは、プレゼンテーションは行われず、一人あるいは複数の司会者の進行で、全員がフロアで情報提供や話し合いをする。トピックの例は次のようである。

「performing arts」「視覚芸術」「退職者」「アフリカ系アメリカ人」「コミュニティカレッジとトランスファー」「独立カウンセラー」「国際バカロレア」「私立高校」「女子大」「若いアドミッション部門責任者」「(その家族で)初めての大学入学者世代となる出願者について」「高校のカレッジ・カウンセラーの資格」「公立校」「カトリック校」等。

(6) 展示

日本の学会でも、関連の企業等が展示ブースを出展することがあるが、この会には、239というきわめて多数のブースが出ていた。

出展者(exhibitor)は、大学進学にまつわる教材開発企業、大学側が高校側に大学の存在をアピールする際に活用するグッズのデザイン・製造・販売を行う企業、大学入学者選抜のために活用できるソフトウェアを開発する企業、大学進学ローンの企業、大学で活用するラーニングマネジメントシステムを開発する企業、大学訪問をバーチャル(3Dを含む)に行えるようにするWEBページ開発企業、個別の大学、美術系大学協会のような特定の領域の大学協会、カナダの大学協会、大学側カウンセラーの協会など、大学側のカウンセラーと高校側のカウンセラーのためのありとあらゆる情報提供であった。

どのブースでも、パンフレットの他に、名前を覚えてもらうために配布するWEBページのURL入りのボールペン、ウォーターボトル、エコバッグ、メモパッド、ストレスボール、ハンドスピナー等とキャンディやチョコレートなどを用意していた。また2日目からは、Boston Duck Tours という市内観光のための水陸両用の大きなバスさえ持ち込まれて展示されていた。このように、とてもすべてのブースで話を聴くことはできないほどの展示がなされていた。昼食もここで販売された。

(7) 有料のプレコンgress・セミナーやワークショップ

事前に申し込んだ者だけが参加できる有料のセミナーやワークショップも存在した。それらは、「留学生獲得」「転学」「進学指導に活用できるツール」「大学アドミッション部門での中級管理職のための専門職的発達」「アドミッション部門長のための専門職的発達」等、専門職的なものがほとんどであるが、中にはヨガのセミナーなどもあった。

(8) レセプション

夕食後の時間に、いくつかの団体や企業をスポンサーとするオードブルとカクテルによるレセプションが会場外のホテルの宴会場などで開催されていた。これらには、対象者を限定するものと限定しないものがあった。

(9) キャンパス・ツアー

会の開催に前後して、近隣の大学を中心に、たくさんのキャンパス・ツアーが設定された。これは、この会に参加する高校側のカレッジ・カウンセラーの訪問を期待してのものだと考えられる。それらは、ブラウン大学を含むロードアイランドの7つの大学を回るグループツアー、マサチューセッツ大学アマースト校や全米リベラルアーツカレッジでランキング2位のアマーストカレッジなどを含む、マサチューセッツの5大学コンソーシアムの大学を回るツアー、MITやハーバードやウェルズレイカレッジを回るツアーの他に、個別大学ツアーが14、2大学を回るツアーが5、3大学を回るツアーが4、6大学を回るツアーが1あった。それ以外に、オープン・キャンパスのように決められた日時にアドミッションズ・オフィスを開放している大学が6あった。

(10) プログラムの配布方法

なお、リスト状のプログラムは、WEB上にも公開されていない。その代わりに、スマートフォン用のモバイルアプリが無料で公開されており、これを各自でダウンロードすることで、詳細なプログラムを見ることができる。会場で参加時に渡されるプログラムブックより、こちらの方が詳細に記述されている。また、主要なセッションのスライドも、これで見ることができる。さらに、このアプリでは、自分の参加予定のプログラムをチェックして自分の行動を管理することができ、重複した予定を入力すると警告される。くわえて、プログラムの内容は必要に応じて改訂され、このアプリの内容に反映される¹⁷。なお、このアプリのWEB版があり¹⁸、WEB上でもこれを確認することができ、ログインすれば、行動の管理も可能である。

5. 参加したいいくつかのセッションについて

以下に筆者が参加したセッションについてごく簡単に紹介する。

筆者は、上記の初参加者のためのセッションと全体会の他、いくつかのセッションといくつかのSIGに参加した。その中で読者と情報を共有すべきひとつの興味深いセッションを取り上げる。

それは、「LL 3. ROAD WARRIORS: RESULTS OF A NATIONWIDE SURVEY OF ADMISSION COUNSELORS¹⁹」というセッションである。セッションの主催者は、高校生の大学選択や出願の援助を含む、学習とキャリア関係のサポートをするミネソタ州のHOBSONSという企業²⁰の Education and Outreach ManagerであるKim Oppelt氏であり、通常のセッション会場ではなく、

¹⁷ 筆者はアプリ自体のバージョンアップには注意していたが、プログラムの内容の改訂があると考えていなかったため、これを見て、初参加者のための会合が初日の早朝にあると考えており、会場に行ったがそのようなものはなく、担当者にきくと、内容が改訂されたとのことであり、実際に改訂のためのダウンロードを行ったところ、そのプログラムはなくなっていた。

¹⁸ <https://guidebook.com/guide/100391/>

¹⁹ <https://www.nacacconference.org/education/learning-lounges/road-warriors-results-of-a-nationwide-survey-of-admission-counselors/>

²⁰ <https://www.hobsons.com/> その点では、この企業も独立カレッジ・カウンセラーとしての機能を有すると考えることができる。

展示が行われている展示ホールの一角に設定されたセッションのための2つのコーナーの1つで行われた。Road Warrior（路上の戦士）というのはゲームや映画のタイトルとしてもよく使われる語で、このタイトルは、高校訪問という職務のために全米を車で旅行する大学のアドミッションズ・カウンセラーたちをRoad Warriors と呼び、1日の訪問高校数、旅行の延べ距離、出願に成功する生徒の状況、最も好きなホテルやレストランのブランド、ネットワーク形成の方法、参加するイベント、高校側のカレッジ・カウンセラーに伝えたいこと、「路上生活」のためのコツなどについて、前年度に224名のアドミッションズ・カウンセラーを対象に調査した結果を比較し報告するものであった。

それによると、アドミッションズ・カウンセラーの、

- 66.2% が1日9時間から12時間働き、
- 20.6% が1日12時間以上働いている。
- 44.7% が勤務大学から半径500マイル（800km）以上の場所²¹まで高校訪問に出かけ、
- 60.4% が昼食時に高校を訪問している。
- 53.1% が1日平均4つの高校を訪問し、
- 38.6% がひとつの年度に20以上のカレッジフェア（自大学の宣伝のためのイベント）に参加している。
- 37.1% がホテルに26泊から50泊しており、
- 38.8% がヒルトン、36.6% がマリオット、24.6% がその他のホテルを好み、
- 71.3% がドライブ中の食事のための駐車場所として頻繁にスターバックスを使用している。
- 85.1% がネットワーク形成のための専門職的コンファレンスに出席しており
- 90.2% が高校生とのやりとりこそが自分の仕事で最も報われるものだと感じている。

この調査は、日本にはなかなかその実態が把握しにくい米国の大学のアドミッションズ・カウンセラーの職務生活の実態の一部を見せてくれるものであり、有益で興味深い情報を提供している。

6. アドミッションに関するいくつかの概念

日本ではほとんど情報がなく、今回の会合でしばしば目にし、耳にした概念のうち3つについて、以下に、情報提供のために少し解説しておく。それは、「ホリスティック・アドミッション」、「ターニング・ザ・タイド」、「独立カウンセラー」である。

(1) ホリスティック・アドミッション (Holistic Admission)

「ホリスティック・アドミッション」は、敢えて訳せば「全体論的入学者選抜」ということになる。また関連する語として、Holistic Review(全体論的評価)も用いられている。簡単にいえば、総合的評価による入学者選抜といえる。これは、SATのような標準化テストによって測定した出願者の学力だけでなく、それ以外のたくさんの面を見て、一人の出願者をトータルに評価するものだと考えられる。ただし、たくさんの評価項目の点数を合計するだけでは真にホリスティッ

²¹ 日本に置き換えれば名古屋から盛岡あるいは佐賀までの距離である。

クとは言えず、さらに積極的に、その出願者の全体像を見ようとするものだと考えることができる。これは、現在のひとつのトレンドであるが、多項目の総合点で評価するよりも客観性が低くなり、主観性あるいは評価者の主体性が高くなる評価方法である。したがって、そのことに伴う問題も生じる恐れがある。そのため最終日には、「ホリスティック・アドミッション、味方が敵か？」というセッション²²さえ設定されていた。

(2) ターニング・ザ・タイド (Turning the Tide)

「ターニング・ザ・タイド」(潮流を変える)とは、Harvard Graduate School of EducationのプロジェクトであるMAKING CARING COMMON から派生した探索的なプロジェクトが2016年1月20日に発表した報告書²³の名前である。それは、大学入学者選抜のプロセスを次の3つの領域で再形成しようと提案するものである。

- ① 他者へのより有意義な貢献、他者、共同体奉仕、公共善へのより有意義な貢献を促進すること。
- ② 出願者による他者への倫理的な関与と貢献を、人種、文化、社会階層によって多様な方法で評価すること。
- ③ 経済的に多様な生徒のための公平な土俵を用意し、過度の達成圧力を減じるような方法で成果・学力 (achievement) の再定義をすること。

これは、昨年1月に発表された方針であるため、昨年9月からの大学入学者選抜にはすでに影響を与え、今年の選抜がその2年目ということになる。ただし今回の会では、この名を冠したセッションはなく、このことばがしばしば発表者の発表内容に登場する程度であったため、具体的な影響はまだ少ないと考えられるのではないのではないかと思われる。しかしこの語が非常にしばしば語られていることから、これがじょじょに大きな影響を持っていくことは想像に難くない²⁴。

(3) 独立カレッジ・カウンセラー (Independent College Admission Counselor)

今回のセッションでは、初参加者のためのセッションを含めて、大きなものではしばしば最初に司会者が、参加者に挙手を求めてその背景をたずねた。その結果、どのセッションでも大学側のアドミッションズ・カウンセラーが4割、高校側のカレッジ・カウンセラーが4割、そして残りの2割は、Independent (College) (Admission) Counselorつまり独立(カレッジ)(アドミッション)カウンセラーあるいは private counselorと呼ばれる参加者であった。

独立カレッジ・カウンセラーは、大学にも高校にも属さず、独立して、家庭からの依頼で契約をして大学選択や大学出願をサポートする職業である。前述のHOBSONS社のように企業がそれを行っている場合もあるが、フリーランスの個人がそれを行っている場合もある。以下、個人に

²² G10. HOLISTIC ADMISSION: FRIEND OR FOE? Saturday, September 16, 2017, 11:30 AM to 12:45 PM

²³ http://mcc.gse.harvard.edu/files/gse-mcc/files/20160120_mcc_ttt_execsummary_interactive.pdf

²⁴ この概念や報告書を解説するWEBページは、日本語のものは2つしかなく、しかも一方が他方の情報源である。それに対して、中国語のページは無数にあり、中国が米国の大学入学者選抜に高い関心を持っており、日本はまったくそうではないということが象徴的に表れている。

ついて、その職務の内容等をかれらのページ^{25,26}を参考に記述する。

その契約はセッション毎の場合と出願全体をパッケージで契約するものがある。多くは過去に大学側のアドミッションズ・カウンセラーか高校側のカレッジ・カウンセラーをしていて退職した女性で、母親が多いとのことである。かれらは専門職団体を形成し、その1つがThe Higher Education Consultants Association (HECA) である。

高校にカレッジ・カウンセラーが存在するにも関わらず、このような独立カレッジ・カウンセラーと契約する家庭がある理由としては、高校のカレッジ・カウンセラーは場合によっては1つの年度に何百人もの生徒の面倒をみなければならないことがあるが、独立カウンセラーは1年に数人の生徒をみるので、きめ細かく相談に乗れることや、とくに、独立カウンセラーには得意分野があり、音楽、美術など、特別な領域の大学進学をする場合に、より多くの情報を提供できることなどが挙げられている。また、大学選択と出願に伴う親子の緊張・対立関係の間に緩衝材のように入ってそれを和らげる働きもすると述べられている。

なお、独立カウンセラーは、大学とのコネを使って仕事をするものではないと明言している。また、出願のためのエッセイを生徒に替わって書いたりほししないと宣言している。それは非倫理的であるし、そもそも大学側のアドミッションズ・カウンセラーは、SATの記述式テストの結果をダウンロードして出願時のエッセイと突き合わせるので、そのようなことをすればすぐに大人の手が入ったものと分かってしまうとも述べられている。

なお、かれらの中には特別に成果を上げ、高収入を得ている人がいることを否定してはいるが、ほとんどが、少ない収入でむしろ生徒のために働き、しかるべき生活をする人たちであるとも説明されている。

独立カウンセラーの選択の際には、そのカウンセラーがどのような会議に参加しているかを確かめるべきだとあり、その最初にこのNACACが上げられていた。

以上のような独立カレッジ・カウンセラーは、高校生への援助をするものであるため、高校側のカレッジ・カウンセラーに近い仕事をするものであると考えることができる。

なお、かなり古いものだが、大学のアドミッションズ・カウンセラーと高校のカレッジ・カウンセラーが独立カレッジ・カウンセラーをどう考えているかについての研究も存在している²⁷。

7. おわりに

筆者らは、2017年の3月に米国大学のアドミッションとアドミッションズ・カウンセラーの職務の調査を行うために、マサチューセッツ州の4つの大学を訪問した²⁸。その上で今回の会に参

²⁵ Hiring a College Admissions Counselor--Part 1 Part 2 by Audrey Kahane

<https://www.theacorn.com/articles/hiring-a-college-admissions-counselor-part-1/>, <https://www.toacorn.com/articles/hiring-a-college-admission-counselor-part-2/>, 2017/9.24閲覧

²⁶ Why should I use a college admission counselor and what value they deliver? Ajay Singh September 18 2016, <https://www.stoodnt.com/blog/24/why-should-i-use-a-college-admission-counselor-and-what-value-they-deliver> 2017/9.24閲覧

²⁷ Krugman, Mary K.; Fuller, John H.(1989)The Independent, Private Counselor: What Admission Officers and Secondary School Counselors Think. Journal of College Admissions, n123 p10-19 Spr

²⁸ 州立総合大学としてマサチューセッツ大学アマースト校、選抜性の高い大学としてマサチューセッツ工科大学(MIT)、リベラルアーツ・カレッジで全米2位にランクされ、新島襄も学んだアマーストカレッジ、SAT/ACTの点数を入学選抜で採用していないハンプシャーカレッジの4校である。

加したことで、米国大学のアドミッションについて、さらに具体的に、その姿を描くことができるようになった。それだけでなく、大学側と高校側、加えて独立の立場の異なるカウンセラーたちが、常に情報交換と経験交流を行って、生徒のためによりすぐれた仕事をしようとする姿勢に感銘を受けた。米国の大学進学制度は、このような人々のこのような努力によってこそ支えられていることを、ごく一部ではあるが感じることができた。

来年のNACACは上記の通りユタ州ソルトレイクシティで開催予定であり、開催担当者²⁹と話したが、開催地の関係から、今回ほど大きな規模にはならないはずであって、今年は最大規模だったことであった。したがって、今年の大会に参加できたことは、情報収集のために大変好都合であったと考えている。

今後もさらに関連する情報収集を発展させ、日本の高大接続改革に資する情報を提供していきたいと考えている。

²⁹ Rocky Mountains ACAC - RMACAC - アリゾナ、コロラド、ニューメキシコ、ユタ、ワイオミングの中のユタの組織からの出席者で、来年の開催担当者。